

不織布シートのハウス外部被覆による高温期の輪ギク「神馬」直挿し法		
[要約]パイプハウスでの輪ギク「神馬」の8月上旬直挿しにおいて、パイプハウスを不織布シートで被覆すると、ハウス内気温の上昇が抑えられ、欠株がなく、2L品(85cm調整65g以上)の割合が5割以上になる。		
茨城県農業総合センター 鹿島地帯特産指導所	成果 区分	普及・情報

1. 背景・ねらい

挿し穂等育苗管理作業の省力が図れるキク直挿し栽培について、砂地土壤に適した技術開発が求められている。直挿し栽培では、ポリエチレンフィルムでべたがけを行うことが一般的であるが、3月以降はべたがけ内が高温になり、葉やけが発生し、生育不良となることがある。そこで、不織布シートを被覆したハウス内で、ポリべたがけを行い、安定した生育が確保できるか検討を行った。

2. 成果の内容・特徴

1) 不織布シート被覆パイプハウス(図1)内の日最高気温は28~35で推移し、無被覆ハウス内より3~14低く、高温である程、昇温防止の効果がみられた。また、不織布シート被覆下でのべたがけ内気温は26~36で、べたがけ内地温は26~34で推移した。(図2)

2) べたがけ撤去時の挿し穂にやけは見られず、わずかにしおれる程度であった。(表1)

3) 欠株はなく、85cm調整40g以上の割合は79.8%、65g以上の割合は50.9%であった。(表1)

3. 成果の活用面・留意点

1) 当成績は鹿島南部地帯の砂質土壤における試験成績であるため、地域や栽培施設の相違により、異なるので注意が必要である。

2) 当成績は平成18年度単年度の試験結果である。

4. 具体的データ



図1 不織布シート被覆状況

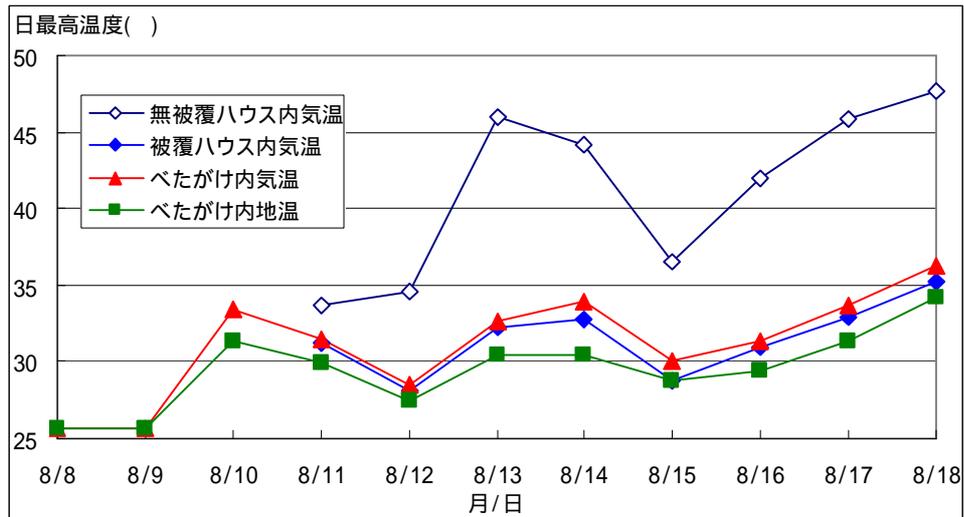


図2 べたがけ期間中の無被覆，不織布シート被覆ハウス内日最高気温及びべたがけ内日最高気温，地温の推移

表1 べたがけ撤去時のしおれ状況、切り花品質及び切り花分布

べたがけ 撤去時	切り花品質						切り花分布 (%)					
	開花日	草丈	葉数	柳葉数	茎径 ²⁾	花首長	85cm調整 ³⁾ 重					85cm
しおれ程度 ¹⁾	(月/日)	(cm)	(枚)	(枚)	(mm)	(mm)	65g以上	50~64g	40~49g	30~39g	29g以下	未満
0.90	12/1	95.4	54.1	1.5	5.9	22.9	50.9	28.9	4.4	0	0	15.8

注1)しおれ程度：6段階(0:無,1:微,2:少,3:中,4:多,5:甚,6:腐敗)で評価した。 注2)花の付け根から20cm下の茎径

注3)85cmで切り揃えた後、下部20cmの葉を除去

試験場所：無加温パイプハウス 供試品種：「神馬」 試験規模：1区58株，2反復 直挿し：8/8

直挿し方法：殺菌剤を灌注後、農業用ポリエチレンフィルム(厚さ0.02mm)で被覆し、10日後の8/18に撤去。

外部遮光方法：不織布シート(D社製)をハウス上部及び妻の部分に被覆した。8/1に設置し、8/28に撤去した。

栽植方法：畦幅60cm,株間7.5cm,条間15cmの4条植え 電照(21:30~2:30):8/8~10/6 再電照(21:30~2:30):10/17~10/21

施肥(10a当)：(基肥)CDU複合燐加安化成(12-12-12)で各成分15kg(追肥)複合燐加安(15-15-10)を9/11,10/18にN成分で15kg施用
矮化剤処理：ピーナイン1,000倍液を10/27,11/6に約1.6mL/株散布

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

鹿島南部砂質地帯における輪ギクの生産性向上技術の確立・平成16~平成19年度
鹿島地帯特産指導所